

はまます いっぺかだれや つうしん

石狩市浜益区地域おこし協力隊通信 Vol.76

発行日:令和6年4月1日

**地域おこし協力隊として、果樹に軸足を置いた2年半と、
広く一次産業に関わった1年間。浜益の皆さん、お世話になりました！**

きむら果樹園での農作業をきっかけに、浜益が好きになり、地域おこし協力隊として移住してから3年半が経ちました。最初は斗内果樹園で果樹栽培。一次産業に関わる仕事は初めてだったので、挑戦の日々でした。天候などの影響で、毎日のように状況が変わり、仕事は多岐にわたる上に私自身も不器用なので、よく失敗もしましたが、周りの方々のサポートもあり、少しずつ自分の引き出しにして、前へ進めました。なかなかうまくいかないことも多く、ご迷惑をおかけするようなこともあったと思いますが、今後につながるいい経験になったと思います。今では、「浜益に来てよかった」と感じています。



▲(1年目)「土台作り」を意識し、とにかく果樹に関することになんでも挑戦し、自分のものにする時期。吹雪の中、5m近くも登ってチェーンソーで木を切ることが大変だった記憶があります。夏には道の駅でのさくらんぼ販売PRイベントも企画しました。



▲(2年目)前年から取り組んでいることは継続し、さらに果樹園と関わる機会を作ることを意識した年。

繁忙期には、さくらんぼ収穫の合間に、りんごの木約40本を1人で摘果するなど、果樹に関わる仕事にも慣れてきました。自分の手で育てたりんごをドライ加工し、ZOOMで交流するイベント「りんごナイト」企画や、春には果樹園の自然を体験するモニターツアーも実施しました。

ezorockが企画した浜益版「集落の教科書」製作にも関わりました。とにかく突っ走って、いろいろと次につながるものを形にできたと思います。



▲(3年目)コロナも落ち着いたことで、果樹園にも本来の観光客が戻った年。冬の剪定などは3年目になり、自分で考えて行動することができるように。また、移住のきっかけになった果樹園プログラムでは、果樹園と出面さん、ボランティアの皆さんをつなぐことを心掛け、微力ながらお手伝いさせていただきました。

また、ezorockの企画で、浜益のさくらんぼを冷凍し、RSRで「雪どけのさくらんぼ」として、1000食販売・PRし、大変好評でした。この取り組みで関わらせていただいたezorockや果樹生産者の皆さん、ありがとうございました。



▲(3.5年)浜益に住み、生きていくため、活動テーマを広く「一次産業」に関わることに方向転換し、芋ほり・選別や稲刈り、牛の世話や、ホタテ・ニシン等の漁業にも関わりました。同じ農業や一次産業でも、育てるものが変わればまったく別物で、難しさも感じましたが、携わるチャンスをくださった皆さんに感謝しています。

▲これから

4月からは、浜ワークに就職し頑張っていきます。ミニバレーや温泉などに顔を出すこともあるので、見かけたらお声かけいただけるとありがたいです。今後ともよろしくお願いします！

来月のはのすけが発行します！！

地域おこし協力隊
井上 優太